

連携研究報告

2015年9月6日（日），塘研と難波研の連携研究「檜原湖及び会津川（檜原湖北部流入河川）に生息する昆虫を餌資源として利用する魚類と底生動物，藻類，大腸菌群，水質との関係解明」の第1回合同調査を実施しました。難波研は雨の中，午前中から舟で檜原湖での水質調査，午後は河川での水質，藻類等の調査を実施しました。塘研は夕方から会津川上流と下流での底生動物調査，夜は会津川上流でライト・トラップによる成虫採集を実施しました。以下に塘研の調査について，簡単に報告します。

調査は塘と大学院生の難波君（M1）が実施しました。会津川上流と下流での底生動物採集は，昨年度にコドラートを用いた定量的な採集は実施済みのため，今回はコドラートが置けないような場所を中心に，手網によるランダム・サンプリングで実施しました。

河川での底生動物採集が終わった後，会津川上流の採集地点付近でライト・トラップを実施しました。時々風が吹きましたが，雨には降られず，気温はそれほど下がらない中での採集となりました。ターゲットはカゲロウ類，カワゲラ類，トビケラ類の成虫です。日没直後からトビケラ類が次々に飛来し，カゲロウ類も時々誘因されました。カワゲラ類の飛来はあまり多くなかったですが，大型のカワゲラ類が数個体採集できました。時間が経つにつれて蛾類の飛来数が増え，トビケラ類は少なくなったように感じました。19:30頃にはシタバガ類（カトカラ属）を含む中型蛾類ばかりとなり，カゲロウ類やトビケラ類の飛来頻度が減ったため，終了にしました。

採集した底生動物サンプルの一部は生かした状態で持ち帰り，大学院生の武田君（M1）が窒素量を測定する予定です。また，底生動物とライト・トラップで採集した成虫は大学院生の大平君（D2）がRAの業務として同定する予定です。



←車のボンネットの上にランタンを置いてのライト・トラップを実施。19:00頃から蛾類の飛来が多くなり，白布の上を飛び回る蛾類のため，トビケラ類やカゲロウ類が採集しづらくなりました。



思ったよりも気温は下がりませんでした，それでも時々風が吹き，やや肌寒さを感じました。